

金沢大学の最新情報を紹介!

NEWS&TOPICS

学生のための連載企画

Enjoy!!

課外活動団体SNAP

令和6年
能登半島地震・
奥能登豪雨における
本学の取り組み

「PRESENT」

金沢大学オリジナル
QUOカード



抽選で10名様

キャンパスから未来を拓く!

金沢大学がつくる サステナブルな社会

For the English article, please refer to the back cover

キャンパスから未来を拓く!

金沢大学がつくるサステナブルな社会

金沢大学は未来ビジョン「志」として、現在ならびに未来の課題を探求し克服する知恵「未来知」による社会貢献を掲げます。環境、医療、多文化共生などの地球規模の課題に対して、持続可能な社会を目指す本学の取り組みを紹介します。

Design:POLUX Text:Public Relations strategy office staff

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは?

「エス・ディー・ジーズ」は2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

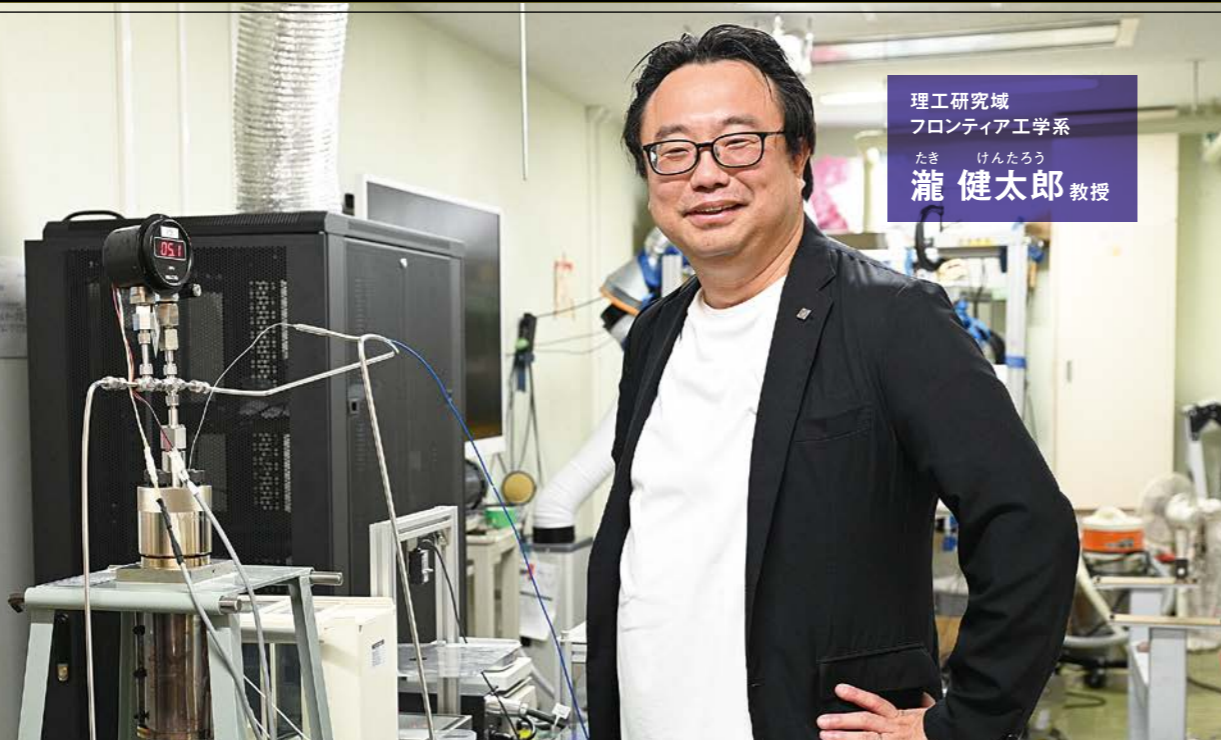
PART 1

未来社会を作る研究者たち

金沢大学では、歴史と真理の追求を礎に、地域と世界を往還させながら、持続可能な社会の実現を目指した研究が進んでいます。これまでの常識にとらわれない斬新な発想で、未来社会の価値観をつくり出そうとしている研究者に迫ります。

資源循環社会の構築に貢献する

二酸化炭素の泡で材料を分解し



理工研究域
フロンティア工学系
たき けんたろう
瀧 健太郎 教授



医薬保健研究域
医学系
ところ まさはる
所 正治 教授

非病原性の寄生虫を治療に
応用し医療の新たな扉を開く

泡がマルチマテリアル成形品を分解

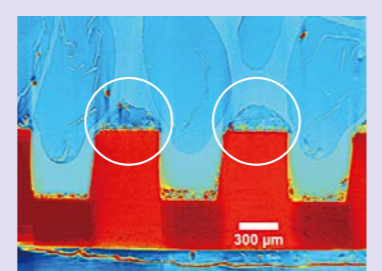
異なる材料であるプラスチックと金属などを強固に結合したマルチマテリアル成形品は、スマートフォン、自動車など身の回りのあらゆるものに使われています。軽量性や断熱性に優れたプラスチックと、強度や熱伝導性に優れた金属の結合により、単一の材料だけでは実現できない総合的に優れた特性を持つ製品を生み出します。しかし、その一方で、材料が混ざり合うがゆえにリサイクルできないという欠点があります。

高分子化学工学を専門とする瀧健太郎教授は、高機能な高分子を高品位に作り出す技術の研究を行うだけでなく、作り出されたマルチマテリアル成形品をリサイクルする技術の開発にも挑んでいます。特に、二酸化炭素(CO₂)の気泡に注目し、容易に材料ごとに分解してマテリアルリサイクルにつなげる方法を考案しました。

CO₂の有効利用で地球温暖化対策

瀧教授は、成形品の使用時には十分な強度を保ち、廃棄時には強度を下げて分解させるために、異なる材料が接合する部分(界面)にCO₂を浸み込ませて発泡させることを考えました。まず、成形品を压力容器に入れ、所定の圧力のCO₂を注入し、成形品にCO₂を浸み込ませます。成形品を取り出し、加熱などの刺激を与えると、CO₂が界面で発泡し、強度が下がります。この方法は、カーボンニュートラルの取り組みで回収されるCO₂の有効利用にもなるため、地球温暖化対策への貢献にもつながります。

今後は、発泡が難しい材料でも泡で分解できる処理条件の研究や、低コストで分解できる技術の開発などの課題に取り組めます。本研究は、2021年に科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業CRESTに採択され、5年半の計画で進行中です。



成形品にCO₂を浸み込ませた後、加熱すると、金属とプラスチックの界面に気泡(○の部分)が生成され、隙間が作られ、分解されます。



レトルト食品のパウチも、アルミとプラスチックのマルチマテリアル成形品。このままでは焼却もリサイクルもできないため、アルミを取り出す実験中。

寄生虫感染症は過去の話ではない

戦後の日本では、国民の6割以上が寄生虫に感染していました。国の大々的な対策や公衆衛生の向上で感染率は大幅に減少、1996年、寄生虫予防法が廃止されました。

国内から寄生虫研究室はどんどん減り、現在は数えるほどです。しかし、コロナ禍で経験したように、グローバル化が進む現在、ある国で発生した感染症は瞬間に世界中に広がっていきます。寄生虫学を専門とした医師でもある所正治教授は、寄生虫症の診断・治療経験のある医師が少なくなり、感染が見逃され、適切な治療がなされない事例もある現状に危惧を覚えながら、教育と研究に邁進しています。

ヒトの健康と寄生虫の関係を調べる

所教授は、インドネシアで寄生虫の感染実態も調査しています。現地の子供たちの

便には大量の寄生虫が見られましたが、健康状態に大きな問題はありませんでした。対して、寄生虫のいない日本では、アレルギーやアトピーなどの自己免疫疾患が増え、社会問題となっています。

このような調査から、病気の原因とならない非病原性の寄生虫が、宿主であるヒトの健康や免疫にプラスの働きをしているのではないか。所教授はそう考え、寄生虫を治療に応用する可能性を探求しています。

まずは、腸内にいるすべての寄生虫を特定するため、DNAのメタバーコーディング解析*を進めています。腸内の寄生虫でも非病原性の種類には未解明な部分が多く、1種ずつ遺伝子分類を定めるところから始めています。腸内で細菌、真菌、そして寄生虫がどう構成され、宿主であるヒトの健康や免疫にどう関係しているのかを明らかにできれば、寄生虫を用いた治療という医療の新たな扉が開けるかもしれません。

* DNAの配列をバーコードのように読み取り、種類を特定させること。



長年に渡り、インドネシアの研究者や保健関係者と調査研究の協力体制を築いてきました。金沢大学で博士学位を取得した助産師もいます。



インドネシア出身で、現地の医師免許を持つ博士後期課程の学生たち。膨大な量のメタバーコーディング解析をともに進めています。

PART
2

地域と世界で活躍する医療人

金沢大学は、教育研究活動や附属病院での診療を通じて、すべての人の健康と福祉を支えています。さらに、毎年400人以上の医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師などの医療人を育成し、医療の未来をつなげています。

多職種連携のチーム医療で 核医学治療の国内トップを走る。 金沢大学附属病院核医学診療科



小児の放射線治療には、核医学診療科と小児科、医師と看護師の協働が不可欠です。本院では診療科や職種を超えた連携がとともスムーズです

核医学診療科長
医薬保健研究域医学系
きぬや せいご
絹谷 清剛教授

金沢大学附属病院は、毎日約1,500人の外来患者、約600人の入院患者を受け入れ、高度の医療を提供しています。このうち、核医学診療科は放射性医薬品を体内に投与する診断や治療を行っています。特に治療では、日本で唯一、小児の神経芽腫に対する放射線治療を実施し、国内のトップランナーとして知られています。

核医学診療科は、治療環境を向上させるため、放射線を遮る厚い壁と、放射線を帯びた水を処理する排水施設を備えた専用病室を整えました。また、医療従事者の被ばく線量を低く抑えつつ、患者さんが快適に治療を受けられるノウハウを、看護師が中心となり、医師や放射線技師と協働し作り上げてきました。日本は放射線治療に対

する法規制が厳しく、国内で受けられる治療は限られ、海外での治療を希望する患者さんには莫大な負担のしかかります。絹谷清剛教授は、治験、先進医療による治療を積極的に行い、行政に放射線治療の有効性を伝え、規制の緩和を働きかけています。核医学診療科は患者さんがより負担の少ない治療を受けられるように、走り続けます。



診断
診療放射線技師が核医学診断装置を素早く操作。放射性医薬品の管理なども行っています。

治療
患者さんは、薬剤の投与を受ける間、ほかの人を被ばくさせないために、専用病室から一歩も出ることができません。4~5日に及ぶ小児の神経芽腫の治療では、保護者と話せるテレビ電話の力も借り、わずか3歳の子供が治療を終えることができました。

今年で50周年、小児1型 糖尿病をもつ人の交流の場。 北陸小児糖尿病サマーキャンプ



1975年から続くキャンプで、1型糖尿病をもつ子供たちが、集団生活を通じて糖尿病の知識や技術を身に着けます。

1型糖尿病は10万人に2人ほどの希少な病気。子供たちは普段、学校では、自分ひとりがこの病気という状況で、インスリン注射を行っています。また、親は周囲に相談できる人やモデルケースがおらず、子供たちの将来に不安を抱えています。キャンプでは、子供も親も、同じ病気をもつ仲間と交流することができ、元気に成長している先輩を見て、将来に希望を持つことができます。

子供たちを取り巻く社会や医療者への啓発活動も行っています。石川県内のすべての小中学校にお知らせを配布し、養護教諭やクラス担任にも事前研修やキャンプ参加を呼び掛けます。寄付も募り、支援者であり理解者の輪が広がることを目指しています。

DATA

キャンプへの参加、寄付などのお問い合わせは事務局(金沢大学慢性・終末期看護技術学分野研究室)まで。



事前研修と準備

ボランティアの学生たちがキャンプの運営を支えます。附属病院小児科・岡島道子助教による小児・思春期の1型糖尿病についての講演を聞き、病気への理解を深めてから、キャンプに参加します。



サマーキャンプ

3泊4日のキャンプでは、学生たちも一緒にレクリエーションに参加します。子供たちは年齢の近い大学生と触れ合い、楽しく過ごします。

子供のときに参加したポストキャンパーが家族と訪ねてくれることもあります。いつでも戻ってこられるキャンプとして続けていきたいです

医薬保健研究域保健学系
たさき けいこ
多崎 恵子教授

地域と世界での臨床実習で 未来の医療人を育む。

診療参加型臨床実習



医学類生たちは、4年次秋から6年次夏までの実習を通して、医師として必要な能力や倫理観などを養います。必修59週は、附属病院や教育提携医療機関で診療業務の一部を担いながら、実践的なレベルの問題解決能力や医行為の実施能力の獲得を目指します。6年次の選択13週は、研修医に準じた診療業務を行いながら、自分の関心がある分野をさらに学べ、海外での実習も選択できます。

北陸での実習

石川、富山、福井、新潟県の40以上の医療機関で2~4週の実習に臨みます。

市立輪島病院、
ごちゃまるクリニックで
実習しました



医薬保健学域医学類 6年
はせがわ
長谷川 あかねさん

千葉県出身で、昨年の実習で初めて能登を訪れ、1カ月間、輪島市で暮らしました。市立輪島病院では末期の心不全の患者さんを担当しました。本人は自宅に帰ることを強く望まれていましたが、家族は在宅でのケアに不安を抱えていました。そこで、病院と在宅医療を行うごちゃまるクリニックが連携して在宅でのケア体制を整え、家族の不安を取り除き、退院することができました。翌週のクリニック実習で、自宅を訪問したところ、患者さんの表情や顔色が入院中とは全く変わっており、自宅に帰ることの大切さを知りました。医療者が患者さんと丁寧にコミュニケーションをとり、家族も大切にしている姿が印象的でした。



1.船に乗って舩倉島にも診療に行きました。2.3.土日には、友人たちが代わる代わる輪島にやって来て、一緒に観光しました。(2023年撮影)

海外での実習

2024年度は、アメリカ、オーストラリア、台湾、エストニアに派遣しました。

国立台湾大学で
実習しました



医薬保健学域医学類 6年
しまくら ありひろ
島倉 有啓さん

台湾で最も大きい小児病棟で、1週間ごとに小児総合、小児血液、NICU、PICUと回りました。回診は基本的には中国語で行われましたが、英語で回診をしてくださる方もいました。カルテも英語で書かれており、海外からの患者さんにも英語で説明がされていました。台湾の医学英語のレベルが非常に高いことに驚きました。小児科志望で、日本でも周産期の診療科を中心に実習したので、台湾と日本の医療を比較することができ、それぞれの良い点を外から見ることができた機会にもなりました。後輩の皆さんも、興味があれば挑戦して、そしてまた次の代につないでください。



1.NICUのスタッフと記念撮影。2.国立台湾大学の小児病棟。3.4.台湾の心臓外科医に台北散策に連れて行ってもらいました。5.台湾での指導医の先生とランチに行きました。

グローバルキャンパスで実践する多文化共生

国籍や文化などの異なる人々が、互いの違いを認め合い、対等な関係を築き、共に生きていく多文化共生社会。金沢大学では、一人一人が互いの個性を理解し、認め合う姿が日常に見られます。

日本人学生と留学生が ひとつ屋根の下で暮らす。 シェアハウスで共に成長 学生留学生宿舍「先魁」「北溟」



角間キャンパスにある学生留学生宿舍「先魁」「北溟」は、留学生と日本人学生が一つのユニット(男女別)で生活するシェアハウスです。「先魁」は、大学での経験や外国語能力を生かし、留学生へのさまざまな生活支援を希望する日本人学生が、「北溟」は、海外留学を見据える日本人学生が入居し、留学生と共同生活をしています。日常的に異なる文化や価値観に触れることができる環境は、入居者から大変好評です。今回は「先魁」に潜入取材。シェアハウスの魅力を深掘りしてお伝えします。



英語が日常の環境が魅力で入居しました。帰国した友達ともいまだに連絡を取り合っています!

融合学域先導学類 4年
よしはら すずは
吉原 涼葉さん



留学中、親友の兄に教わったギターを演奏することも。



個室も完備。時には友達との部屋で夜通しトークすることも。



先魁は2階建てで、シャワールームが各ユニットごとに設置。



リビングでは、ルームメイトとさまざまなことを語り合っています。



共用スペースの間取りは、広々としたLDKです。



洗濯機をはじめ、一般的な家具は備え付けです。

DATA

先魁 SAKIGAKE

- 所在地/金沢市角間町
 - 定員/104名(うち日本人学生約26名)
 - 月額/22,270円(別途、光熱水料等約10,000円必要)
 - 1ユニット留学生6名と日本人学生2名のシェアハウス型
- ※日本人学生は、RA(レジデントアドバイザー)として留学生の生活支援を行います。



北溟 HOKUMEI

- 所在地/金沢市角間町
 - 定員/200名(うち日本人学生約80名)
 - 月額/26,800円(別途、光熱水料等約12,000円必要)
 - 1ユニット留学生3名と日本人学生2名のシェアハウス型
- 詳細は、確認したい宿舎名を明記し、下記にお問い合わせください。
学務部学生支援課: gakuryo@adm.kanazawa-u.ac.jp



北陸地域での日本語教育の ネットワーク形成を目指す。 日本語教師養成・ 研修推進拠点整備事業



北陸地域は、外国人が少人数であちこちに暮らす散在地域です。大きなコミュニティで暮らす集住地域に比べると、サポートが少なく、行き届いていません。

そこで、北陸地域において最も多くの日本語教師を養成してきた本学が中心となり、北陸地域の日本語教育のネットワーク形成を目的に昨年度から本事業が始まりました。

今では、日本の農業、漁業は外国人の力に支えられており、共に暮らすことが社会にとって大切な課題です。本事業は、全国の外国人散在地域における先進事例としてモデルケースになることを目指します。



北陸地域で日本語教育に携わる組織・団体・個人が
つながり、ノウハウや課題
を共有します

人間社会研究域国際学系
いししま のりこ
市嶋 典子教授



金沢大学と他大学が連携し、第1回研究会を実施。現役の日本語教師や学生たちがお互いの経験を共有し、意見交換しました。

教育委員会

大学

金沢大学

日本語教師

国際交流団体

「生活者としての外国人」を対象とした日本語教育実習を実施しました。



技能実習生にインタビューを行い、現場での日本語教育のニーズを調査しました。



留学生や研究者の子供たちが 日本語と日本文化を学ぶ。 金沢大学附属小学校 日本語適応教室「さくら」



金沢大学には多くの留学生や外国人教職員がいます。家族を伴って来日する方もおり、附属小学校にはその子供たちが日本語を学ぶ「さくら」学級があります。

日本語が分からない子供たちは、身振り手振りでのコミュニケーションからスタートし、1年後には普通学級に移ります。全国的には、国際学級に籍を主置き、ほとんどの時間を過ごす形は珍しく、2022年に開始した「さくら」は先行例がない中、学校教育現場での豊富な経験を持つ中川教諭と日本語教育の専門知識を持つ阿部教務補佐員がともに学びの内容を作り上げてきました。



こんにちは。カキは、いくらですか

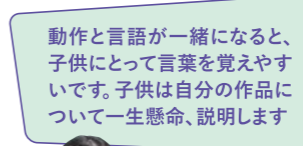
いらっしゃいませ。カキは200円(えん)です

個にあわせた内容と速さで学習するため、まず教科の内容を、さらに日本語を理解していくことができます



附属小学校
なかがわ ゆき
中川 佑紀教諭

国語「ものの名まえ」と算数「たし算・ひき算」の学習を組み合わせ、おみせやさんを通して。各々の学年に応じた学習をしながら日本語を学びます。



動作と言語と一緒にすると、子供にとって言葉覚えやすいです。子供は自分の作品について一生懸命、説明します



附属小学校
あべ あかり
阿部 朱理
教務補佐員
人間社会環境研究科
国際学専攻 日本語教育・
日本文化研究コース 2022年修了



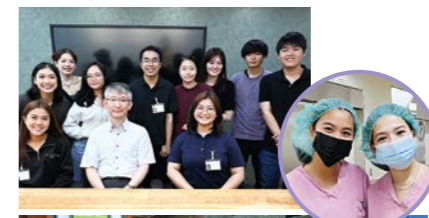
図画工作を研究する中川教諭の専門性を生かし、粘土を使いながら「はんぶん」「ちぎる」「まるめる」と言葉覚えしていきます。

医療で世界をつなぐ! 国際医療交流会

医学類公認サークルの国際医療交流会は、海外医学生との交流を通じ国際的に活躍できる医師となるべく活動しています。7月には、フィリピンの医学生が金沢を訪れました。ともに医療を学ぶことはもちろん、金沢案内を通じて交流を深めました。今後、金沢を訪れる海外医学生はますます増える見込みです。国際交流のさらなる活発化により、国際的な視野を広げ、将来の医療に貢献できるよう努めています。



交流会の代表を務める医学類3年松山智亮さん。



フィリピンの医学生と、金沢で交流を深めました。

多文化の架け橋! 留学生コミッティ(ISC)

ISCは人社系、理工系それぞれで活動している留学生団体で、大学に国際色豊かな活力をもたらしています。さまざまな国籍の留学生が交流し、互いに助け合って、日本人学生や地域の人々とともに充実した金沢大学ライフを送っています。



人社ISCたこ焼きパーティー(左)と理工ISCリユース市(右)。

国際交流を支援! KISSA

KISSAは、日本人学生と留学生が交流するためのイベントを企画・運営する団体です。カフェからバーベキュー、流しそうめんまで楽しい催しが盛りだくさん。イベントにはさまざまな工夫を凝らしており、活発な国際交流が生まれています。



「はんとかふえ。」にて。国際交流の輪を広げている。

PART 4

現在と未来の課題に挑む学生たち

金沢大学は、学生たちが自らの探求心に応じて、自ら学び、考え、行動できる教育環境を整備しています。自らが挑むべき課題を見つけ、志を持って、粘り強く徹底的に向き合っている学生に、インタビューしました。

人間社会環境研究科国際学専攻 博士前期課程1年
よしかわ まい
芳川 舞さん



自己肯定感を高める支援を目指して

国際学類1年次から、外国にルーツを持つ児童・生徒の日本語学習支援を始め、現在は週1回ボランティア団体で、週3回高等学校での支援活動に参加しています。

支援する高校生たちは日本語での日常会話ではできても、授業で先生の話していることが理解できないことがあります。彼らにはそれは仕方がないことで、頑張ってもどうせできないと自己肯定感が低くなっています。支援では、彼らに勉強の必要性を伝えてモチベーションを上げ、周りとは比べず、以前の自分と比べて良くなった点に目を向けさせて自信をつけられるようにしています。

ぶる」などのオノマトペが分からない、経験していない地震などの事象のイメージがわからないまま授業が進んでいくなど、個々がつまずく部分は同じではありません。卒業論文は、高等学校の国語に的を絞り、彼らが日頃の学習をどう感じているのか分析し、課題を明らかにしました。今は支援全般について研究を進めています。日本の学校教育が、外国人など多様な背景を持つ人たちに柔軟に対応していく一助を担えるよう、日本語教育の経験を積んでいきたいです。



5年前からボランティア団体「金沢子どもスタディサポート」に参加して、小・中・高校生の学習支援をしています。

柔軟な学校教育システムの必要性

日本語学習支援と一口に言っても、漢字の音読みと訓読みが判別できない、「ぶる



支援を受ける高校生の視点から
日本語学習の課題を明らかにする



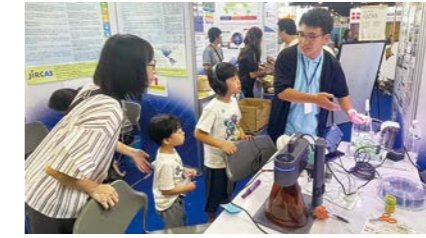
魚類の耳石を解明して
豊かな海を未来につなげたい

理工学域生命理工学類 2年
おかむら しゅんぺい
岡村 駿平さん



小学生から始まった耳石の研究

小学生の時に参加した解剖教室で魚の耳石に興味を持ち、自由研究にまとめました。耳石は脊椎動物の内耳にある炭酸カルシウムでできた石状の組織で、平衡感覚に関わっています。魚種ごとにさまざまな形をしており、どうしてこんなに違うのか不思議でした。その後も、耳石の収集を続けていたのですが、どう研究すればいいのかわからず、いたるところ、高校の教諭から金沢大学のグロー



タイ科学技術博覧会2024でタイの子供たちに金沢大学の研究を紹介。世界にも関心が広がり、留学を検討中。

バルサイエンスキャンパス(GSC^{*1})を紹介されました。GSCでは、生命理工学系・竹内裕教授の指導を受け、1年半、魚類の生態と生理に関する研究を行い、学会でも発表することができました。

研究を水産資源の活用につなげたい

魚類の研究を続け、出身地である石川県の水産業の発展に貢献したいと思い、金沢大学に進学。KUGS特別入試では、提出した課題論文に先生方から質問や意見が出されます。今はそれに基づいて自分でデータを収集しています。理工学域の研究室配属は4年次からですが、竹内教授やアドバイザー教員から助言をもらいながら進めています。耳石に焦点を当てた研究は少なく、未知の部分が多いです。この研究が、水産資源の活用につながるよう探求し続けます。

*1 現在は金沢大学STELLAプログラム。Cステージ修了者にはKUGS特別入試の出願資格が付与されます。

融合学域先導学類 4年
おだなみ ゆうや
小田波 優矢さん



女性の健康問題を男性が共に考える

融合学域先導学類の理念「社会課題の解決を先導する次世代のリーダーを養成する」に惹かれ、一期生として入学しました。

女性との雑談から、生理には痛みや不調があること、病院には行きづらい、生理休暇は取りづらい、女性の問題なので男性には分かってもらえないと思っていることを知りました。男女がともに活躍する社会では、女性の健康問題を男性もサポートする必要があります。意識する男性が少ないからこそ、自分がこの社会課題に挑もうと決意しました。

健康問題に関するコンサル」を始めました。自分たちも公益財団法人「ジョイセフ」による「性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」についての研修を受講。本学で開発した生理痛疑似体験機器を使ったイベントも実施。

卒業論文では、生理休暇の取得率が低い原因を研究しています。今後は、女性の健康問題に取り組む企業で働きながら、大学院で研究も続け、課題に取り組みたいです。身近な人のつらさに気づくアンテナをみんなにつけて、寄り添い合う社会を作ります。



「ユースの保健室」で公益財団法人「ジョイセフ」からSRHRについて学びました。男女間に知識差があり驚きました。

実践と研究で社会課題に挑む

そこで、学生団体「ユースの保健室」を立ち上げ、「若者に対する包括的性教育」「心身について気軽に相談できるユースクリニックの設立活動」「企業に向けた女性の



人のつらさに気づくアンテナを立て
大切な人に寄り添える社会を作る



科学的な根拠に基づいた医療を
臨床と研究から実現させる

医薬保健学域薬学類 5年
せやま はるか
瀬山 春佳さん



臨床現場の課題に研究で挑む

臨床現場では経験に基づいて薬が処方されることがあります。科学的な根拠によらない処方、予期せぬ副作用などのリスクがあり、この問題を研究で解決したく、博士課程まで10年間におよぶ一貫的な教育プログラムを受けられる薬学類のAO入試^{*2}で入学しました。1年次早期ラボレーションで、「Evidence-Based Medicine^{*3}」を知り、自分の関心に近いと感じました。



所属する臨床薬学研究室が実施する「おくすりサロン」に参加し、薬の正しい飲み方などを伝えています。

薬の副作用を科学的に分析する

所属する臨床薬学研究室では、パーキンソン病治療薬の副作用を研究。PMDA^{*4}が提供する医薬品副作用データベースを用いて副作用情報の解析を行い、低血糖の発現頻度やリスク因子などについて、調査をしています。

また、ポリファーマシー(多剤併用)の研究にも参加し、高齢者が多く服用する降圧薬について減薬できるのかデータをまとめています。病院での実務実習で、薬剤師がポリファーマシーの患者さんの減薬に取り組み、症状が改善したのを目の当たりにして、研究の意義を実感しました。

将来は、病院薬剤師をしながら研究も続け、臨床の課題を研究で解決し続けます。

*2 現在は薬学類・高大院接続入試。

*3 EBM. 科学的な根拠に基づいた医療のこと。

*4 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨における本学の取り組み

金沢大学は石川県にある総合大学として被災地に寄り添い能登の創造的復興と持続的発展を強力に支援していきます。

Design: POLUX Text: Public Relations strategy office staff

金沢大学能登里山里海未来創造センター長にインタビュー



金沢大学能登里山里海未来創造センターセンター長

谷内江 昭宏 理事/副学長

Profile

金沢大学医学部卒業、金沢大学大学院医学研究科修了。医学博士。専門は小児科学。金沢大学教授(医学部)、金沢大学学長補佐(研究担当)、附属病院副病院長を歴任し、2024年2月金沢大学能登里山里海未来創造WG座長、4月センター長に就任。同月から金沢大学理事・副学長。石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード委員も務めている。

2024年元日に起こった令和6年能登半島地震からの復興とあわせて、9月には奥能登豪雨が被災地を襲いました。

まずは、令和6年能登半島地震および奥能登豪雨により、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、負傷された方、被災された方、そのご家族および関係の皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。被災地の方々や復旧・復興に携わってきた皆様のご心痛は計り知れません。迅速なライフラインの復旧に加え被災された方々に心から寄り添うことが第一です。

金沢大学は、地震の発災直後から附属病院のメディカルスタッフが被災地の医療支援に駆け付け、続いて学生ボランティアや教育支援チームが金沢市内および近郊の避難先へ入りました。研究者らも、発災直後から現地へ赴き、学術研究を進めてきました。それらのチームを束ねる形で1月30日に能登里山里海未来創造センターを設置したわけですが、これまでの取り組みを総括していかがでしょうか。

発災直後、大学の構成員が、それぞれの能力、技術、知識を被災地ですぐに役立てるため、連携機関と協力して自

能登の創造的復興に向けて 金沢大学が果たすべき役割とは

主的に行動しました。そこから1月末に本センターを設立し、大学全体で情報共有しながら、一体感を持って動ける仕組みを構築しました。大災害の経験値が少ない中でのこれまでの活動にも課題はたくさんありますが、復旧から復興に向けて、被災地に何が一番求められているのか、金沢大学に何ができるのかを考える準備が整いつつあります。

谷内江センター長は石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード委員も務めています。客観的視点から、本学が能登の創造的復興に携わる上で大切なことを教えてください。

まず一つは、石川県が創造的復興プランに掲げる理念、「能登が示す、ふるさと未来 Noto, the future of country」に沿って走ることです。能登の復興の在り方が、日本の半島地域や過疎地域を含めた地方の復興の在り方を示すモデルケースになるはず。本学は先の理念を念頭に置きながら、自治体とタッグを組み、創造的復興に向けた本学の取り組みの一つ一つが理念から外れていないか検証しながら進める必要があります。

もう一つは、行政や被災地の方々とは異なる視点を強く意識して持つことです。被災地に寄り添い、共に汗を流しながら、同時に俯瞰的な視点を堅持する。これはアカデミアが得意とすることだと思います。これから中長期の伴走型支援に入ると、地元石川県にある大学にしかできないことがたくさん出てくるはず。大学が行うことは地味で、表からは見えにくいことのほうが多いと思いますが、今後はアカデミアならではの支援が目に見える形になってくると思います。

被災から時間が経つにつれて現れてくる課題や見えてきた奥能登特有の課題もあると思います。その中で、今後、金沢大学が果たすべき役割とは何ですか。

アカデミアの人間としての視点を堅持しながら、今回の経験値を被災地の未来へつなぐことが大きな役割でしょうね。その一つが「ハブ」となることです。被災地が「新しい能登」になるためには文字通り「創造的復興」のプラットフォームを作ることができるかが問われます。しかしながら、喫緊

の課題であるライフラインの復旧から、時間をかけてしっかり検討すべき能登全体でのなりわい、教育、医療などの課題解決まで、全てを被災地の自治体だけで行うのは困難です。そこで、震災前後で外から能登へ入られたキーパーソンや県と大学が協力・連携することが重要になります。

そして、金沢大学が総合大学であるということは大きな意味があります。単なる防災学、復興学、まちづくり学ということではなく、能登というフィールドだからこそできることが必ずあるはず。今こそ大学が一体となって文理医の英知を結集し、新たな学術を未来へつなぐ役割を果たす時だと思います。

金沢大学がこれらの役割を果たすためにも、全体を統括する能登里山里海未来創造センターは重要な組織になると思います。今後の具体的な取り組み予定があれば教えてください。

本学が能登の各自治体と長年連携してきた縁は深く、能登学舎や臨海実験施設など、各所に拠点を持っています。今後、各市町に拠点を増やす予定です。また、震災から1年となる2025年1月には、「第4回令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会」を開催予定です。

さらに、本センターのWebサイトも新設し、本学の取り組みの報告はもちろんのこと、被災地復興に資する学術調査や研究成果のデータなども公開していく予定です。それらのデータを皆さまの活動に活用していただくと共に、金沢大学および能登里山里海未来創造センターが協働できることがあれば、ぜひお声掛けください。



7月21日に能登町役場と2カ所のサテライト会場(珠洲市役所・しいのき迎賓館)で「のと里山里海未来創造シンポジウム」を開催。参加者と能登のこれからを語りました。

能登の復旧・復興支援に係る 4月以降の主な取り組み

学生・教職員 × ボランティア・支援活動

金沢大学は、学生・教職員が参加するボランティア活動について、地域への貢献だけでなく、学生を育てる取り組みの一つと考えています。発災以降、災害ボランティアをはじめ、児童・生徒への学びの支援ボランティア、傾聴ボランティアなど、9月末までに計165回のボランティア活動を行い、延べ1028人が参加しました。また、融合学域観光デザイン学類の演習科目や、北陸3県の8大学を中心に発足した「GAPPA noto(北陸建築学学生仮設住宅環境支援プロジェクト)」に参画する本学4教員の実習科目においては、正課活動としてボランティア活動および教育研究活動を実施しています。

被災地域の外国人児童・生徒への学習支援者養成オンライン講座



人間社会研究域国際学系 市嶋 典子 教授

被災地の在留外国人の子供へ支援の手が届きにくい現状を踏まえ、学びをサポートする支援者養成のための動画を作成。

災害復興支援作業における個人防護の注意点を動画配信



復興支援人員の2次災害を予防すべく指導動画を作成・公開。県やボランティア団体も活用。

能登里山里海未来創造センターのWebサイト新設!

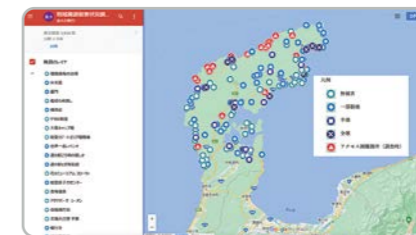
2025年1月25日(土)には、第4回令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会を開催予定。詳細は、12月に金沢大学公式Webサイトおよび同センターWebサイトにてお知らせします。



- 1. 8月11日、輪島市で災害廃棄物の撤去と清掃ボランティア活動を実施。
- 2. 9月29日、輪島市で奥能登豪雨によって水害被災した建物の泥出し作業を行う学生ボランティア。
- 3. 本学のこころのケアチーム「KEYPART」は8月24日に珠洲市飯田高校でストレスマネジメントを実施。
- 4. 融合学域観光デザイン学類の専門教育科目でボランティア活動拠点となるテントを設置する学生ら。
- 5. 8月19日から30日までの間、学生22名が珠洲市教育委員会の協力のもと、珠洲市で小学生・中学生の学びの支援を実施。

研究者 × 学術調査・資料公開

能登の観光資源の被害状況を写真とマップで可視化し公開



融合研究域融合科学系 川澄 厚志 准教授

学内外の研究者と共に能登里山里海の観光資源の被害状況調査を実施。その結果を基に被害状況マップを作成し公開。

発災直後から、各研究者が被災地へ入り、未来へ生かすための学術調査を開始しました。地震観測、地盤調査、海洋調査、健康調査、文化財レスキュー、コミュニティ形成など、日々の調査・支援活動については、新設した能登里山里海未来創造センターのWebサイトにて掲載していきます。

そして、継続的な調査による集積データや、被災者の声に耳を傾ける中で見えてきた、現地に必要な情報については、能登の創造的復興に携わる学内外の皆さまに広く役立てていただけるよう、一般公開しています。

これまで経験したことのないような度重なる困難を乗り越え、能登が創造的復興を成し遂げられるよう、本学はそこに携わるすべての皆さまと連携していきます。

NEWS & TOPICS

最新ニュースを
お届け!!金沢大学の教育・研究に関する取り組みや学生の活躍など、
注目のニュースをピックアップ。本学の「今」を感じてください。

November 2024

産学官金連携で未来を共創、
未来知実証センター本格始動

8月27日、「未来知実証センター TAKE OFF EVENT」を開催しました。同センターは、未来の課題を探求し克服する知恵である「未来知」を社会実装する拠点として2023年4月に設立。本イベントでは、未来社会を描いた15の研究をピッチと展示により紹介しました。展示エリアでは、最先端の機器に実際に触れてもらいながら、研究者や学生らが参加者に説明を行いました。参加者からは、紹介された技術が実装された未来社会に思いをはせる感想が聞かれ、業界や分野の垣根を超えて未来を共創していく第一歩となりました。



- 1.来場者は見て触れて楽しみながら研究体験
- 2.展示エリアでの研究者による研究紹介の様子
- 3.講演ピッチの様子。多種多様な業界から多くの方が参加

本学30カ所目の海外拠点
ウランバートル事務所開設

4月29日、本学の海外リエゾンオフィスとして、モンゴル国立医科大学内に「金沢大学ウランバートル事務所」を設置。同日行われた開所式には、和田隆志学長、モンゴル国立医科大学のダムディンドルジ・ボールドバートル学長、在モンゴル日本国大使館の井川原賢大使が出席しました。今後は同事務所を拠点として、モンゴルにおける教育・研究活動の一層の発展のため、両大学の学生交流や研究者交流をより深めていきます。



ウランバートル事務所内部の様子

将棋の学生名人戦で快挙
本学将棋部学生が日本一に

6月8日、9日に将棋の大学生日本一を決める「第80回学生名人戦」(全日本学生将棋連盟主催)が東京で開かれ、本学将棋部の國井大彰さん(理工学域生命理工学類3年)が初優勝しました。

國井さんは、3年連続本大会に出場しており、昨年まで惜しくもベスト8止まりでしたが、ついに今年、その壁を乗り越え快挙を達成しました。この勢いに乗り、団体戦である学生王座戦での全国優勝を目指し邁進する将棋部に注目です。



喜びと今後の豊富を語る優勝した國井さん

能登里山里海SDGsマイスター
入講生24名が思いをひとつに

6月15日、能登里山里海SDGsマイスタープログラム2024年度入講式を挙行了しました。本プログラムは、世界農業遺産に認定されている能登の里山里海の資源を生かし、地域の課題解決に取り組むリーダー人材を育成するもので、これまでに241名の修了生(マイスター)を輩出しています。能登半島の復旧・復興と創造的発展を果たすため、志を持って集まった人々が相互に学びあい、能登の再活性化を担う次世代リーダーを目指します。



和田学長、入講生らが能登ポーズで集合写真

研究力向上を図るJ-PEAKS
キックオフシンポジウムに参加

7月5日、日本学術振興会主催の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)キックオフシンポジウム」が開催されました。本学からは和田隆志学長が出席し、10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」の実現に向けた施策の展開について紹介しました。本シンポジウムをきっかけに、採択12大学間の連携・交流をより促進し、今後のビジョン実現に向けた取り組みを、さらに加速していきます。



和田学長(左から5番目)ほか、採択された大学からの参加者

来春、融合学域から接続する
大学院修士課程が誕生

2025年4月、新学術創成研究科に総合知創出科学専攻(修士課程)が誕生します。本専攻では、文理医融合の融合学域3学類の教育研究を基礎として、特定の学問分野のみに拠ることなく、さまざまな研究分野の知を取り入れ、集約し、生かす教育研究を行います。多様な知を集積して総合知の創出を探求し、人間や社会の総合的理解および課題解決に資する総合知の社会展開に貢献できる人材を養成します。

尾張町商店街と学生がコラボ
「あんやと祭り」に参画

8月24日、「尾張町あんやと祭り」が開催され、Project: AERU*の一環で本学学生が参画しました。商店街と協力し、チラシのデザインやSNSを活用したPRから当日の司会進行にも携わり、和菓子店と学生が共同で考案したあんみつや和パフェなどの販売も行いました。本学留学生による英語アナウンスをはじめ、附属小学校児童が企画した輪投げや射的なども行われ、祭りを大いに盛り上げました。

*学生が企業、自治体や地域の方と連携して、地域の魅力発信や課題解決に取り組むプロジェクト。



お揃いの法被姿で祭りを盛り上げた参加学生ら

加賀市に新拠点を設置
金沢大学加賀サテライト

10月1日、融合学域と先端観光科学研究所の新たな拠点として、「金沢大学加賀サテライト」が誕生しました。産業振興を目的に本学と包括連携協定を結ぶ加賀市の加賀市イノベーションセンター内に開設し、コワーキングスペースや最新の動画撮影機器などの充実した設備が利用できます。同学域の学生と同研究所の研究者らを中心に、産学官の協働により新しい観光価値を創り、地域課題を解決する拠点として大いに活用していきます。



記者会見を行った飯山宏一融合学域長(右)、宮元陸加賀市長(中央)、堤敦朗先端観光科学研究所長(左)

高校生のための体験イベント
夏休み期間中に続々実施

8月2日から7日に、「第3回がん研早期体験プログラム(がん研EEP: Early Exposure Program)」を実施。参加した高校生らは、直接指導を受け研究者さながらの実験に取り組むなど、高校では体験できない最先端のがん研究に触れ、研究者としてのキャリアについて考える貴重な機会となりました。

8月8日には、理工学域と石川県教育委員会の共催で、「理学の広場～夏休み高校生のための理学体験セミナー～」を実施。石川県内の高校生が、数学、物理、情報・計算科学、化学、生物、地学の6種類のセミナーで実習・実験などを通して、最先端のサイエンス(理学)を体験しました。

また、半月にわたって開催した夏季Webキャンパスビジットには全国から延べ4,000人の高校生などが参加し、各学類のさまざまな企画を通して、本学を広く知ってもらえる機会となりました。



Entertainment Information
on Kanazawa University

学生のための連載企画

Enjoy!!

金沢大学が公認する課外活動団体は、文化系37・スポーツ系39・その他1の計77団体あります。その中でも注目の団体を紹介します。

課外活動団体

SNAP

Q

アピールポイントを教えてください

活動を通して目標に向かい、挑戦している皆さんに聞いてみました!

A

自分たちでコンセプトづくりから設計、コスト計算、組み立てまでした車両で、学生フォーミュラ日本大会を駆け抜けます



フォーミュラ研究会

Formula R&D



A

古文字や遊書、書道パフォーマンスなどに自由に挑戦できる環境です



書道部

Calligraphy Club



A

自然の中で地図とコンパスを使い、ゴールするまでのタイムを競います。山や森の中を全力で走る爽快感や達成感があります



オリエンテーリング部

Orienteering Club



A

全国大会に向け鍛錬しています。また、地域貢献のため、小学生の登校時間に横断歩道の見守り隊もしています



アメリカンフットボール部

American Football Club



掲載しきれなかった情報は大学公式Instagramで随時公開します



A

角間キャンパスの馬場で、14頭の馬と練習しています。金沢百万石まつりの行列にも馬を引いて参加しています



馬術部

Horse Riding Club

A

カメラを通して、一瞬しかない美しい情景に出会うことができます



写真部

Photo Club



女子バスケットボール部

Women's Basketball Club

A

「誰からも応援されるチーム」をモットーに一丸となって活動しています



A

伝統芸能の能楽(宝生流)の実演と普及に能楽師の指導の下、挑戦しています。他大学では珍しい和楽器も演奏できます



宝生会

Noh Club



野球部

Baseball Club

A

人としての行動を大切に、地道な努力を重ね、全国大会を目指します



Acanthus 55号

Cover Model's Voice

今号のカバーモデル

医薬保健学域 医学類 6年
あらい はるか
荒井 悠さん



Photo: Yuji Fujimori

大学入学後、興味があることに積極的に挑戦しようと決めた荒井さん。国際ボランティア活動に2度参加し、孤児のケアやストリートチルドレンとの交流を行いました。海外での臨床実習(P5参照)では国立台湾大学病院の麻酔科で学びました。さらに昨年は「ミス百万石」に選ばれ、全国で金沢の魅力をアピール。今年度は卒業試験や国家試験が控えていますが、その直前にはフルマラソンに初挑戦する予定です。元気はつつとした笑顔で「医療で女性や子供の力になりたい!」と決意を語ってくれました。

PRESENT

金沢大学オリジナル
QUOカード(500円分)
10名様



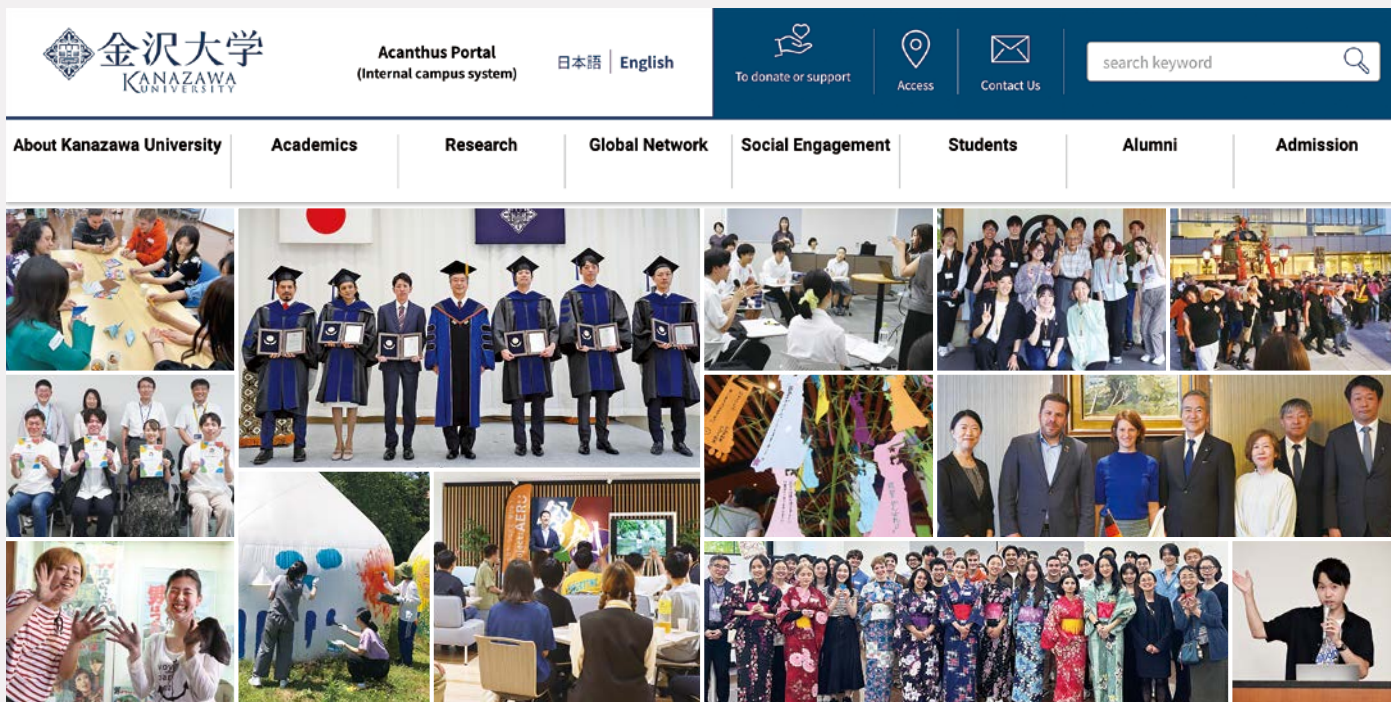
金沢大学オリジナルQUOカード(500円分)を抽選で10名様にプレゼント。今号に挟み込まれている応募ハガキもしくは下記バーコードから応募フォームにアクセスし、アンケートにご記入の上、ご応募ください。

【応募締切】
2025年2月28日
※当選者の発表はプレゼント発送をもってかえさせていただきます。



Kanazawa University's English website has been renewed!

金沢大学 Web サイト英語版をリニューアルしました



Check it Out

Sustainable



Introducing our efforts to promote sustainability

#We will be releasing expanded versions of the feature articles from this issue gradually

本学におけるサステナビリティ推進の取り組みを紹介
#今号の特集記事を拡大して順次公開していきます

English Sustainable



Website_NEWS



Students participated in the Noto restoration praying Kiriko Grand Festival

#Read the latest news in English
#Latest research news is also available

学生が能登復興祈願キリコ大祭、輪島・重蔵神社大祭に参加
#英語でも最新ニュースを公開
#最新の研究ニュースも公開

English News



Website_EVENT



Morse's telegraph from the exhibition by students at the University Museum

University Museum will hold an exhibition that the students worked on

#Students seeking curatorial certification
#Scheduled for 11/12~1/22

学生が自ら手がける企画展を金沢大学資料館で開催!
#学芸員資格取得を目指す学生
#11/12~1/22に開催

English Event

